

学校環境衛生活動WEB調査を終えて

1 はじめに

本委員会は、県下全ての学校において学校環境衛生基準に基づいた定期検査並びに日常点検が完全に実施されることを目指している。このため、各学校の学校環境基準に基づく環境衛生活動や環境教育の取組状況を把握するため、毎年学校環境衛生調査（以下、環境衛生調査）を行っているのに加え、取組が優秀な学校を表彰している。

環境衛生調査は、昨年度までは書類を郵送する方式をとってきたが、本年からはインターネットを使った調査（以下、WEB調査）とした。

2 結果及び考察

本年度の優良校、準優良校、努力校、奨励校の表彰校一覧は9ページに記載した。なお、3年間連続で優良校の表彰を受けた学校は特選校と位置づけ、審査対象外として取り扱っている。以下に実地確認結果の概要を記す。

今年度は、優良校候補として実地確認する学校数を増やした結果、優良校候補として選出される頻度が多い学校（以下、常連校）に加え、これまで優良校候補として実地確認を受けたことがなかった学校（以下、新規校）も候補として選出された。実地確認の結果、常連校との差はあるものの新規校においても優秀な活動が行われていることが確認できた。

(1) 小学校の部 大規模校

すべての学校において、学校薬剤師と学校の関係が緊密で、養護教諭の学校薬剤師に対する評価が大変高いこと、また学校長の環境衛生活

動に対する理解が深いことが特徴的であった。

どの学校も、定期検査や日常点検等、学校環境衛生基準に沿った活動が行われていることが書類に記載されていたが、一部の検査結果や点検記録のない学校があった。学校薬剤師の執務回数が多いことは評価できるが、執務時間を有効に使うための工夫も必要と感じた。

学校環境衛生の中で最も健康被害に繋がりやすい飲料水やプール水の管理に必要となる給排水系統図について、一層理解を深めることが今後の課題であろう。

(2) 小学校の部 中規模校

今回は5校を実地確認した。どの学校も学校環境衛生に対する理解が深く、定期検査や日常検査が概ね基準に沿って実施され、学校薬剤師の執務回数、研修会回数も多かった。一方、学校保健安全委員会や、学校薬剤師による研修内容、学校や児童の環境衛生活動の取組に開きがあった。

給排水系統図はすべての学校で作成されていたが、作成年が不明なもの、図が複雑なもの、上下階の経路が繋がっていないもの、上水道がどこから校内に来ているか不明なものが散見された。また、理科室の薬品保管庫等の毒劇物表示に不備のある学校が多く見られた。これらの点の改善が今後の課題であろう。

(3) 小学校の部 小規模校

実地確認した7校のうち3校は、昨年度準優良校等の表彰を受けた学校であり、残り4校は、今回初めて優良校候補となった学校であった。

A校は、学校薬剤師や学校の取組が児童に浸透しつつあり、児童の自主的な活動が見られた。また、実地確認での質疑応答の対応が優れており模範的な学校であった。

B校は、学校薬剤師の指導が行き届いており、活動自体は概ね申し分のない状態であった。昨年度の指摘事項の対応が実施されていない点が一部認められた。

C校は、学校薬剤師を含め学校の環境衛生に取り組む姿勢に熱意を感じた。また、昨年度の指摘事項については、概ね対応されていた。しかし、調査表への記入ミスが一部認められた。

今回初めて優良校候補となった4校は、定期検査や日常点検を適切に実施していたが、記録のつけ方、検査の実施を省略できる場合の基準の理解、記録を改善へとつなげる手順等、今後の改善を期待したい点があくつか見受けられた。今回の実地確認を機会に、必要な改善策をとっていただければ、相当なレベルアップが期待される。

(4) 中学校の部

実地確認した5校のうち3校が、今回初めて優良校候補となった学校であった。全般的に書類整備の不備や学校薬剤師による書類のコメント欄への記載不足等が散見された。

環境衛生の検査のみならず薬物乱用防止、喫煙防止教育等の実施状況も確認したが、学校毎にその実施内容は異なっていた。

生徒自身による学校環境衛生活動の実践が広がっている。生徒の活動記録の中で、異常値を記録した場合、担当教員等が書類のコメント欄へ記載するなどして指導・助言等を実践することを期待したい。

給排水系統図は、各学校で作成されていた。

給排水系統図の必要性について更に理解を深めていただくことを望む。どの学校も優秀な活動を実践していることが確認できた。今後の活動の更なる発展に期待する。

(5) 高等学校（特別支援学校含む）の部

定期検査、日常検査が概ね学校環境衛生基準どおり実施されていた。一部の学校では、記入ミスなどが認められたが、各学校は学校環境衛生活動に積極的に取り組んでいること、取組内容が充実していること、取組に対し意欲があることが確認できた。

(6) 幼稚園の部

ほとんどの園は定期検査、日常検査が概ね学校環境衛生基準どおり実施されていた。一方で、学校環境衛生基準の理解を更に深めていただきたい園、日常検査が省略された内容で実施されている園、検査結果報告書の保管に工夫が必要な園があった。

各園を訪問し、指導者の検査指導方法に地域間で差があることが認識できたことから、共通の見解が図られることが今後の課題である。

本年度初めて導入したWEB調査は、養護教諭の先生方にとって慣れない作業であったにも関わらずご協力いただいたことに感謝申し上げます。WEB調査は、全般的には好評であったが、ソフトの不具合等が多数見付き、入力に多くの時間を費やすなど負担をおかけしたことについてお詫び申し上げます。

WEB調査の導入によって、各学校の取組を迅速に点数化し県下全体の傾向を把握することが可能となったことは利点である。今年度の調査結果からは、学校環境衛生基準に基づいた定

期検査や日常点検の完全実施に向けて道半ばであることが確認できた。

3 次年度にむけて

- (1) 次年度も、WEB調査を継続する。
- (2) WEB調査システムに不具合が多数あることから順次改善を図り、入力者の負担軽減を図る。
- (3) WEB調査結果の活用について当委員会で検討する。
- (4) 表彰候補校の選定方法の改定を検討する。
表彰制度の目的は、表彰を通じて、各学校の自主的な取組の強化を期待し、その結果として

定期検査並びに日常点検の完全実施が達成されることにある。しかし、現状は、表彰を受ける学校は、常連校に偏りがちであることから、本来の目的達成に懸念が生じている。

平成25年度から導入した奨励校の表彰によって、奨励校の表彰を受けた学校・園が翌年度以降に表彰候補に選出されるという着実な成果を上げている中、更なる変革を検討したい。

平成27年度学校環境衛生活動調査結果（平均点、最高点）

	平均点	最高点
小学校	大規模校	362
	中規模校	357
	小規模校	356
中学校	354	450
高等学校	323	443
幼稚園	249	402

(注1) 満点は、450点 (注2) 平成28年度は個別に点数をお伝えできるようシステム改修中